

平成30年度 第1回 安倍川水系流域委員会 議事要旨

日 時：平成30年8月6日（月） 10:00～10:45

場 所：静岡労政会館 5階

1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

（1）安倍川水系流域委員会規約について

- ・ 本規約の内容について、了承された。

（2）安倍川水系流域委員会委員長及び副委員長の選出

- ・ 委員の互選により、委員長は戸田委員、副委員長は土屋委員が選出された。

（3）安倍川水系河川整備計画の点検について

①安倍川水系河川整備計画の点検の流れ

- ・ 質疑なし

②安倍川水系河川整備計画の概要

頂いた主な意見は以下のとおり

- ・ 昭和30年代から昭和40年代前半にかけて大量の土砂を採取したため、海岸の砂浜が失われたとあるが、その原因は土砂採取以外にあるのではないかと。
- ・ 安倍川流域内には砂防ダムが多数ある。砂防ダムで土砂を留めていることが海岸侵食の要因の一つとしてなっていることを記載すべきである。
- ・ 土砂に関する内容は別途総合土砂管理計画で策定しており、河川整備計画の中でどのように実効的なものにしていくかが今後議論をしていく上で大事なところである。
- ・ 河川整備計画では水収支が明らかになっていないため、渇水問題に対し河川水、表流水、地下水等の水収支の解明や伏流水の魚類など環境面へ与える影響についても取り組んで頂きたい。

（4）その他

- ・ 質疑なし

4. 閉会

以上

平成30年度 第2回 安倍川水系流域委員会 議事要旨

■開催日時・場所

日 時：平成30年11月19日（月） 13:00～14:40

場 所：静岡県産業経済会館 3階 大会議室

■議事内容

（1）安倍川水系河川整備計画の点検について

①事業の進捗状況

- ・ 環境事業については、整備計画策定以降「かわまちづくり」など、新しい環境事業の制度・仕組みができていく中で、今後どのように進めていくのか。
⇒「かわまちづくり」については、地域住民や関係市等の河川空間の利活用の意向を踏まえ調整していきたい。
- ・ 平成30年の台風によって、土砂崩壊により粘土層から細かい粒子（アオト又はオオト）が流下し、河川内の濁りが現在も続いており、アユ、アマゴ、その他の水生生物への影響が懸念される。
⇒濁水の長期化については、今後もモニタリングを継続していく。
- ・ 現在、安倍川では水の流れを中央に集めるような土砂掘削をしているが、これは川が自然的に流れる川づくりに逆行している。現行の河川整備計画では、水辺整備としては人に対する環境整備のみとなっているが、河川法にあたるどころの環境に対する整備としては、人ではなく川として自然な環境のために実施する事業も必要なのではないか。
⇒現行の河川整備計画の策定時では、人の利用を促進するための環境整備は計画されたが、自然再生事業位置付けられていない。今後、自然再生事業についても検討していきたい。
- ・ 「寺社や史跡等、歴史性のある施設を活かしたまちづくり」とあるが、寺社、神社と安倍川にどのような関わりがあるのか。
⇒記載している寺社、神社と安倍川との関わりについては整理していきたい。
- ・ 一例として安倍川の周辺では、「白髭神社」が多数ある。一部の神社では、数年に1度、ご神体を安倍川で清めるという風習がある。
- ・ 色々な環境整備が示されているが、今後、どの地区の整備を進めていく予定があるか。

今後の展望などはあるか。

⇒整備の予定については、地域住民や市等の意向を踏まえ、調整していく。

- ・ 近年の工事状況をみると、工事で低水路の形状も直線的になっている。工事前の状況になるように配慮した方が良い。水制を入れるなど、今後、護岸に影響がない程度に多様性のある施工方法を活用して欲しい。
- ・ 工事実施後から、自然状況に戻るまでにどの程度時間を要するのか経年変化の記録を残し、例えば、5 年位を目途に施工した箇所が人工的になってしまったら、水制を入れるなど自然に近い形になるような対策を検討する等、知見を継続・継承して今後に繋げて頂きたい。また、濁水についても発生状況等を記録に残し、ある一定の値になったら対策するなどの知見を残して欲しい。

②安倍川水系河川整備計画の点検

- ・ 安倍川、大井川の近年の雨の降り方や洪水流量を見ると、幸いにして非常に強い雨が来ていない。一方、全国的に見ると温暖化の影響と思われるような豪雨が発生している。現在、気候変動に伴う検討が進んでいる最中という認識であり、整備計画目標を変更するような事象は流域内で発生していないが、今後は全国的な動きも注視しながら、整備計画目標の見直しを進めていく必要がある。
- ・ 静岡県は他県に比べて観測史上最大を更新した観測所の割合が低い、どのような解釈をしたら良いか。
⇒静岡県では、他県に比べて観測史上最大の降雨を超える降雨が幸いにして降っていないだけと考えている。そのため、そのような降雨が降ることも、今後、想定すること必要があると考えている。
- ・ 本資料は、2012 年からの短期間のデータで示したものであるため、データを蓄積していくことが必要である。
- ・ 今後の降雨の傾向については検討していった方が良い。また、今回の資料では、12 時間雨量の発生状況を整理しているが、岐阜の災害のような連続雨量についても検討に入れた方が良い。
- ・ 河川水辺の国勢調査を環境整備計画に生かされないか。
- ・ 安倍川の河床高は、上昇している。流下断面としての河積は、堤防整備等により確保

されているが、河床高は経年的に上昇しており、河床変動に整合した堤防改築補強がされているか。また、東北地方太平洋沖地震の際には、河口部の小学校において津波による流木等の遡上により被害が発生している。津波による流下物での被害対策はどのようなになっているのか。流下能力図をみても、河口部の流下能力は整備計画流量以下となっているが、整備の予定はどのようなになっているのか。

⇒河床の変動状況は確認しており、河口部の河積確保については、河川整備計画に基づき河道掘削を実施している。津波については、最新マニュアルの照査方法による点検結果では、津波が大きく遡上するような結果にはなっていない。

- ・ 新技術を使用した維持管理については、携わる人が減るなか、新技術が省力化や効率化にどのように繋がっていくのか整理することが大事である。また、維持管理に関連した話としては水衝部や砂州の固定化、樹木の繁茂問題なども点検に盛り込んでいくのが良い。
- ・ 河川水辺の国勢調査結果は、河川整備計画策定後から約10年分のデータがある。これらの調査結果はどのようなになっているのか。策定時の河川環境情報図と現況の河川環境情報図を比較・整理し、策定時からの変化と今後の必要な対策等について検討して頂きたい。
- ・ 静岡市の人口が掲載されているが、水収支等の検討時には、安倍川流域内の人口で整理・修正した方が良い。
- ・ 渇水・瀬切れの発生は、水生動植物や環境にとって良いものではない。瀬切れの発生要因としては、流域内の工業用水・水道水の伏流水利用を認識すべきではないかと思われる。

(2) 今後の進め方

- ・ 今回の点検結果を踏まえ、現行の河川整備計画の整備目標をただちに変更する必要はないことで了承された。

以 上